



府中一小だより

令和 7 年 6 月 3 0 日
第 4 号
府中市立府中第一小学校
校長 宮 内 和 夫

共生社会を目指して

副校長 宮田 有江

11月15日(土)～26日(水)の12日間、「東京2025デフリンピック」が開催されます。4年に1度開催され、世界的な規模の聴覚障害者(デフ(Deaf)とは英語で「きこえない」ということを意味する)のための国際スポーツ大会の一つです。今回は、100周年の記念すべき大会であり、日本初開催でもあるそうです。

昨年度、子供たちは、このデフリンピックでアスリートたちに授与される入賞メダルのデザインを、オンライン投票で選ぶということに参加しました。3つのデザインの中から一つ選ぶというもので、この活動を通して、デフリンピックについて少し知ることのできる機会となりました。

この大会でのコミュニケーションは、主に、国際手話により行われるそうです。

本校でも、今年から月に一度、全校朝会で「手話指導」をしています。4年生担任の新田教諭が毎回趣向をこらし行っています。子供たちは、先生の手の手動きをじっくりと見て、普段は行わない動きにとまどいながらも、楽しみながら覚えようと頑張っている姿が見られます。挨拶を学んだあと、実際に手話を使っている児童も見受けられました。

今、障害の有無など個々のさまざまな違いや課題を超え、全ての子供が同じ環境で学び合い、共生社会を構成していくことを目指す「インクルーシブ教育」が注目されています。情報のコミュニケーションの手段の一つに手話があり、子供たちにとって少しずつ身近なものになっていくといいと思います。

また、こういった取組を通して、子供たちが人と自分の違いを認め合えることや、障害のある方に限らず、困っている人を見たら何かできることはないかと思える気持ちが育つことを願います。

6月19日(木)・20日(金)の学校公開はいかがでしたでしょうか。ご多用の中、多くの保護者の方にお越しいただきありがとうございました。

事後アンケートで保護者の皆様からいただいた、心温まるご回答を一部掲載させていただきました。教職員共々、今後の励みになりました。

- こどもの回答が必ずしも求めていたものではなくとも、いったんはその意見を受け入れ、そういうこともあるかもしれないね、とお話する先生が印象的でした。私の受けてきたような昭和の教育ではなく、きちんと多様性を認める、受容する、といった文化の醸成を1年生から取り組んでいただき親としてもとても勉強になりました。
- 子供の普段の様子を見ることができ、安心するとともに、とても温かい気持ちになりました。クラスの中で、友達の意見に耳を傾けて拍手を送ったり、落とし物を一緒に拾ってあげたりする姿が見られ、思いやりのある関わりが自然とあって素敵だなと感じました。
- とてもクラスが綺麗に整頓されているなと思いました！子ども達と一緒に学んでいる雰囲気も素敵だなと思いました。
- 先生が児童一人ひとりを尊重する温かい対応を、どの児童にもどのような場面でも公平にしていってほしいととても印象に残りました。自分と他者の両方の思いを大切にしながら自分の思考や言動のバランスを取れるようになってきたのは、担任の先生とクラスメイトのおかげだと気づかされました。